

ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」実施報告書 (3)

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」 第3回フィールド研修「里山の資源化2」 「人工林における伐採～植栽～保育の循環」
日時	平成 27 年 11 月 28 日 (土) 9:00~17:00
講師	講義 : 「鬼泪山県営林の歴史と概要」 千葉県中部林業事務所 次長 高梨 貴子 フィールド研修 : 「鬼泪山県営林に学ぶ」 千葉県林業サービスセンター 木村 正敏 講義 : 「林業としての人工林」 千葉県農林総合研究センター森林研究所 所長 遠藤 良太 講義 : 「木製品の開発と売込み」 企業組合千葉県森林整備協会 橋本 幹也
会場	千葉県林業サービスセンター (富津市鬼泪山) 講義 : 千葉県林業サービスセンター 研修室 フィールド研修 : 鬼泪山県営林
出席者	受講生 51 名 (欠席 5 名)・主催者 2 名・スタッフ 2 名
報告	<p>9:30~10:00 講義:「鬼泪山県営林の歴史と概要」 県営林の所在、面積、樹種の割合、県営林の目的、管理状況について説明。県営林の歴史については年表を元に説明した。県営林から木材が県内に供給されることを再認識した。樹種の割合はスギ・ヒノキで3分の2を占め、その他が3分の1であることに納得した。木材価格と事業コストのジレンマがあることも理解できた。</p> <p>10:15~12:00 フィールド研修:「鬼泪山県営林に学ぶ」 人工林における伐採、植栽、保育の現場を観察し、伐採した材の集積場所=土場、法人の森事業の現場を視察した。間伐、皆伐の時期について学習。法人の森事業には銀行、流通、電気、通信などの国内各社が参加し、植林、下草刈り、間伐などの整備に始まり、環境整備、体験学習、自然観察などの森林環境教育に活用されている。晴天の空に映えて、皆伐後と皆伐前の山の姿が見られた。緑のコントラストがくっきりとして素晴らしかった。</p> <p>13:00~14:15 講義:「林業としての人工林」 人工林を統計、管理から見て、里山活動における人工林の利用を学習した。人工林の統計の項目で、千葉県の森林面積、人工林面積及びその割合について受講生に質問すると、正解に近い答えが返ってきた。人工林率の高い市町村の回答が「山武市、東金市など」だったことには意外な感じを隠せなかったようだ。</p> <p>人工林管理については下刈り、除伐、つる切り、枝打ち、間伐の目的と方法について解説。林分密度管理図は焦点が合わない様子だったが、林分収穫表、間伐指針表は理解が進んだ。</p> <p>14:30~15:30 講義:「木製品の開発と売込み」 間伐材を利用した製品開発を行っている橋本講師の講義。営業部門のなかった分野に対しての開発と売込みの必要性を感じさせる内容。住宅、家具、建設資材、チップ、など木材を利用した製品が生まれてくる。木製品を売るためには木材の性質、木材利用の幅広い知識が必要とされる。市場、流通、分析、マーケティングの考査が欠かせない。</p> <p>16:00~17:00 バス移動 (千葉駅)</p>

添付資料（写真）



午前の講義



高梨講師



生産間伐事業地



列状間伐を観察



木村講師



1列間伐



土場



皆伐と地ごしらえ



県有林を背景に集合



遠藤講師



人工林面積の多い市町村は？



橋本講師